資料5　補足資料

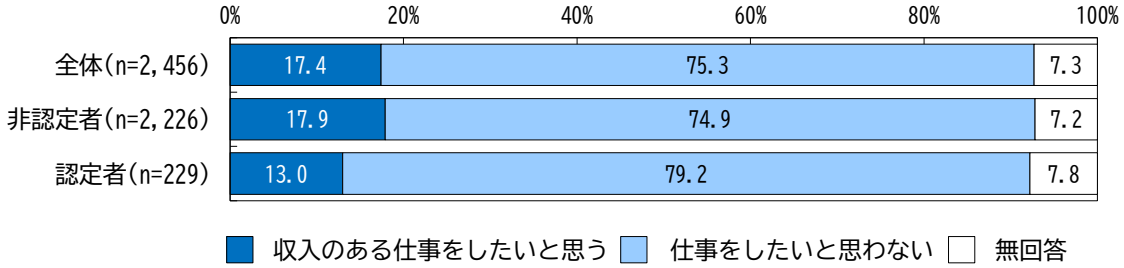
1.高齢者が活躍できる環境づくり

●収入のある仕事への就労意向

問6-5で「1. これまで就労したことがない」、「就労していない」と回答した人が回答

問6-7 あなたは、収入のある仕事をしたいと思いますか。(1つだけ)

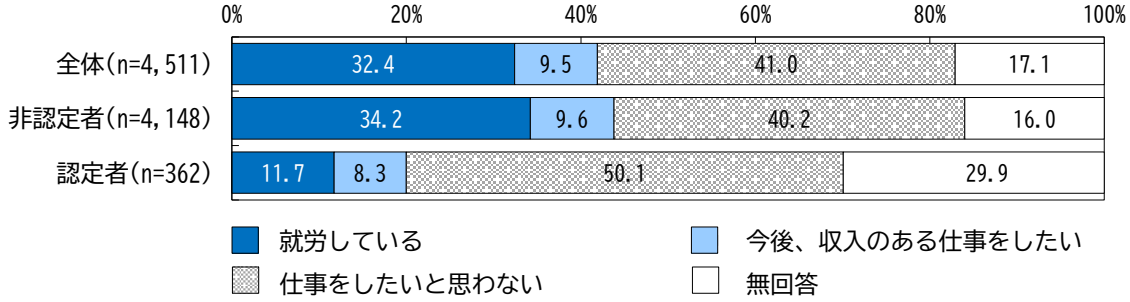
【収入のある仕事への就労意向（認定状況別)】



収入のある仕事への就労意向について、全体では、「収入のある仕事をしたいと思う」と回答した人の割合が17.4%となっている。

認定状況別にみると、「収入のある仕事をしたいと思う」と回答した人の割合は、非認定者で17.9%、認定者で13.0%となっている。

【就労状況・収入のある仕事への就労意向（就労している人を含む・認定状況別)】



現在の就労状況を合わせた結果では、全体では、「収入のある仕事をしたいと思う」と回答した人の割合が9.5%となっている。

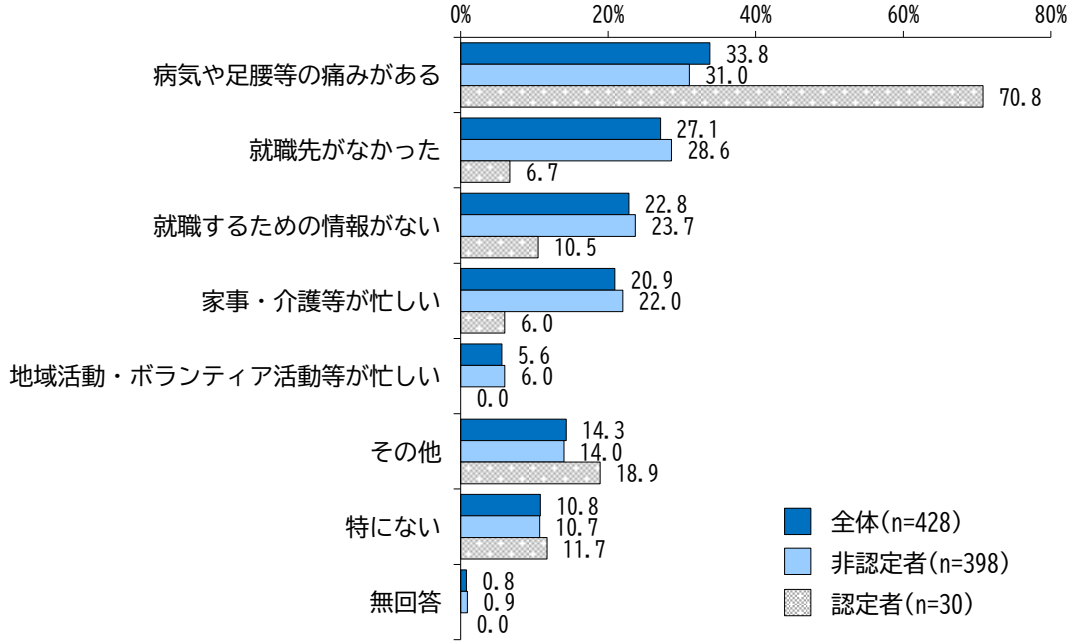
認定状況別にみると、「収入のある仕事をしたいと思う」と回答した人の割合は、非認定者で9.6%、認定者で8.3%となっている。

●就労していない理由

問6-7で「1 収入のある仕事をしたいと思う」と回答した人のみが回答

問6-7-① 現在、仕事をしていないのはどのような理由ですか。(いくつでも)

【就労していない理由（認定状況別)】



就労していない理由について、全体では、「病気や足腰等の痛みがある」と回答した人の割合が 33.8%、「就職先がなかった」(27.1%)、「就職するための情報がない」(22.8%)、「家事・介護等が忙しい」(20.9%) が続いている。

認定状況別にみると、非認定者では、「病気や足腰等の痛みがある」と回答した人の割合が最も高く、次いで「就職先がなかった」となっている。

認定者では、「病気や足腰等の痛みがある」と回答した人の割合が 70.8%となっている。

【就労していない理由（性・年齢別)】

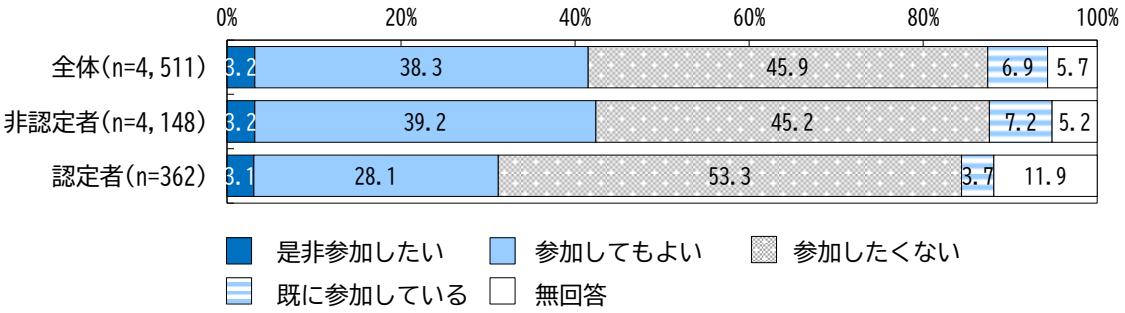
	回答数	病気や足腰等の痛みがある	就職先がなかった	就職するための情報がない	家事・介護等が忙しい	地域活動・ボランティア活動等が忙しい	その他	特にない	無回答
男性　65～74歳	98	31.0%	30.4%	24.9%	16.8%	3.5%	11.6%	12.7%	0.9%
75～84歳	81	31.1%	34.7%	31.2%	9.5%	5.1%	13.4%	17.1%	1.9%
85歳以上	11	43.1%	9.9%	－	20.3%	9.9%	8.1%	19.6%	－
女性　65～74歳	146	31.6%	26.7%	17.7%	29.6%	5.4%	15.2%	6.6%	0.7%
75～84歳	75	39.8%	19.9%	26.6%	23.6%	8.7%	15.9%	8.4%	－
85歳以上	17	49.5%	18.1%	13.7%	12.6%	5.6%	24.4%	10.1%	－

性・年齢別にみると、「就職先がなかった」と回答した割合は、男性 65～74 歳で 30.4%、男性 75～84 歳で 34.7%、女性 65～74 歳で 26.7%、「就職するための情報がない」と回答した人の割合は、男性 65～74 歳で 24.9%、男性 75～84 歳で 31.2%、女性 75～84 歳で 26.6%となっている。

●地域活動への参加者としての参加意向

問６-２　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。（１つだけ）

【地域活動への参加者としての参加意向(認定状況別)】



地域活動への参加者としての参加意向について、全体では、「既に参加している」と回答した人の割合が6.9%、「参加したい」(「是非参加したい」＋「参加してもよい」）と回答した人の割合が41.5%となっている。

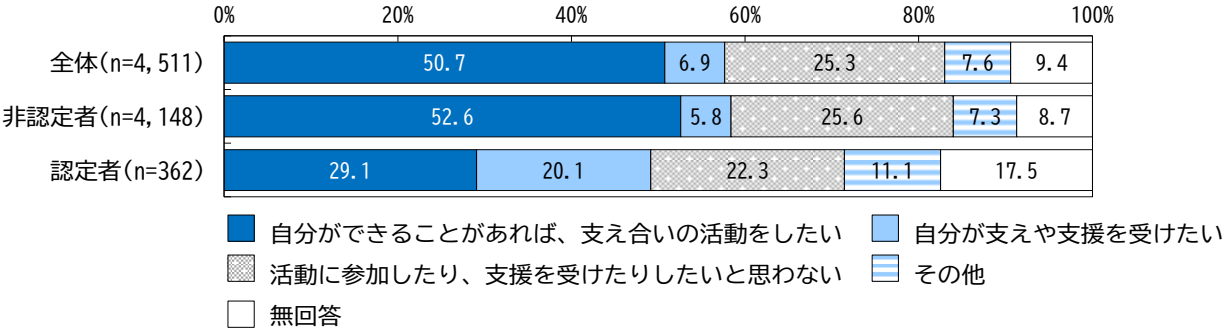
認定状況別にみると、「既に参加している」と回答した人の割合は、非認定者で7.2%、認定者で3.7%、「参加したい」(「是非参加したい」＋「参加してもよい」）と回答した人の割合は、非認定者で42.4%、認定者で31.2%となっている。

2.支え合いの地域社会づくり

●地域の支え合いへの関わり方

問７-９　あなたは、「地域における支え合い」（地域の人が困ったときに協力し合ったり、助け合ったりすること）にどのように関わりたいですか。（１つだけ）

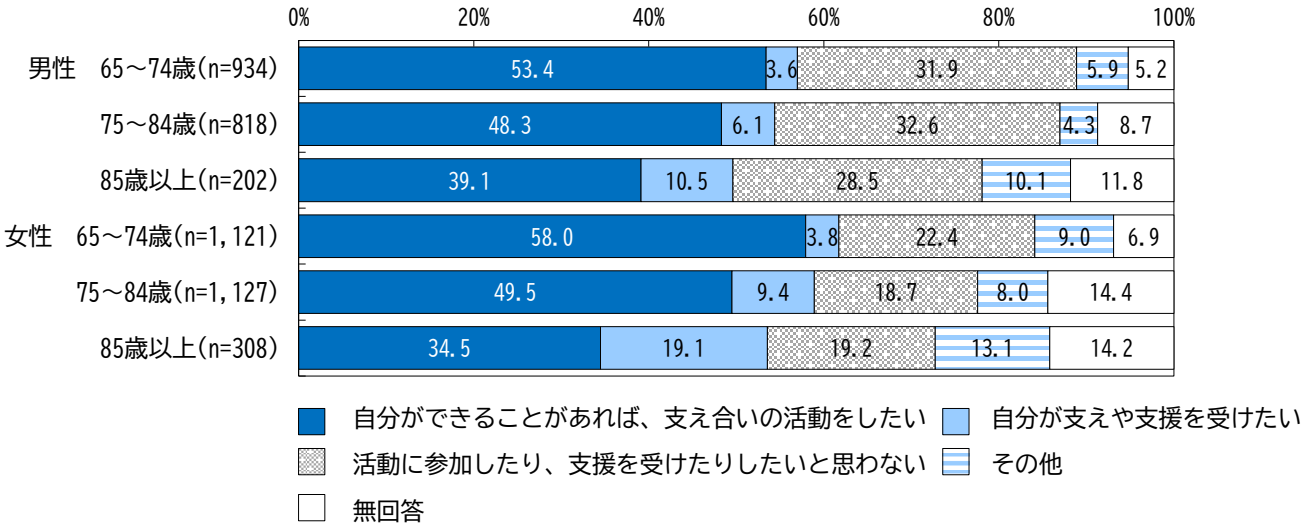
【地域の支え合いへの関わり方(認定状況別)】



地域の支え合いへの関わり方について、全体では、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合が50.7%、「自分が支えや支援を受けたい」と回答した人の割合が6.9%となっている。

認定状況別にみると、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合は、非認定者で52.6%、認定者で29.1%、「自分が支えや支援を受けたい」と回答した人の割合は、非認定者で5.8%、認定者で20.1%となっている。

【地域の支え合いへの関わり方(性･年齢別)】



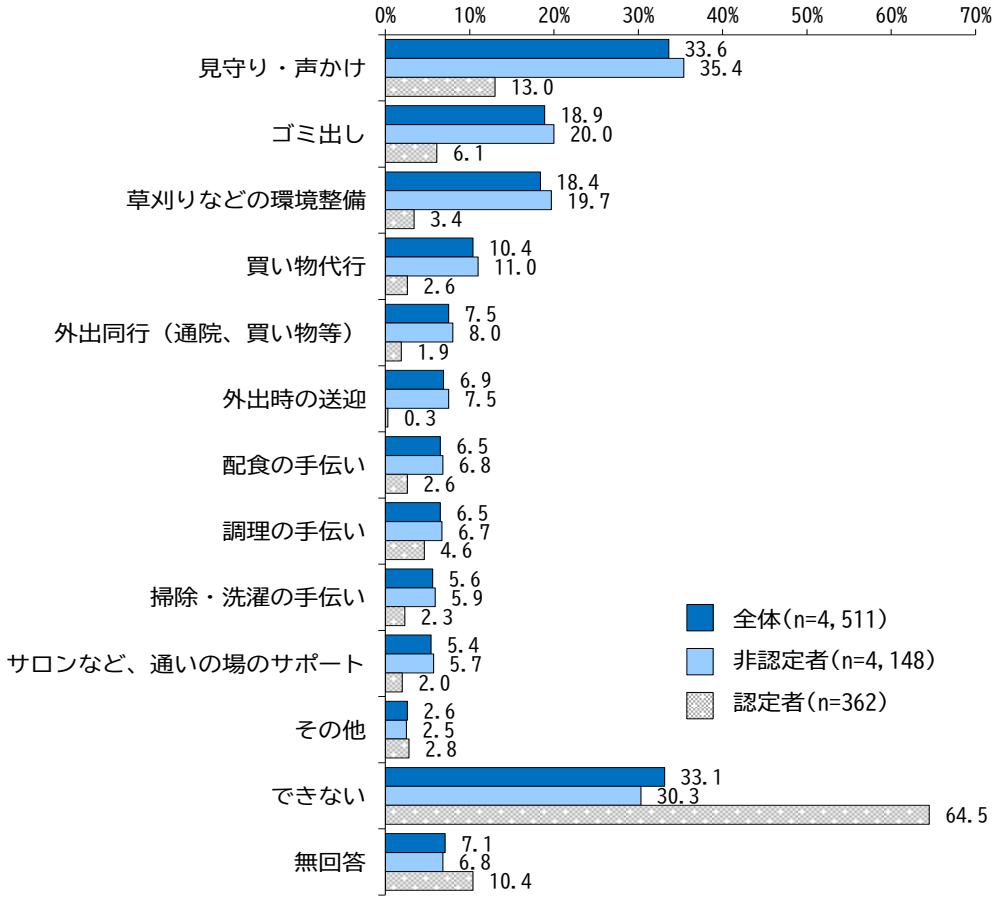
性・年齢別にみると、「自分ができることがあれば、支え合いの活動をしたい」と回答した人の割合は、男女ともに65～74歳で５割台、75～84歳で４割台となっている。

また、「自分が支えや支援を受けたい」と回答した人の割合は、男性85歳以上で10.5%、女性85歳以上で19.1%となっている。

●自分ができる地域の支え合い活動

問７-10　あなたは、地域でどのような活動ができると思いますか。（いくつでも）

【自分ができる地域の支え合い活動(認定状況別)】



自分ができる地域の支え合い活動について、全体では、「見守り・声かけ」と回答した人の割合が33.6%、「ゴミ出し」（18.9%）、「草刈りなどの環境整備」（18.4%）が続いている。

認定状況別にみると、非認定者、認定者ともに、「見守り・声かけ」と回答した人の割合が最も高く、次いで「ゴミ出し」となっている。

一方、「できない」と回答した人の割合は、全体で33.1%、非認定者で30.3%、認定者で64.5%となっている。

【自分ができる地域の支え合い活動(性･年齢別)】

	回答数	見守り・声かけ	ゴミ出し	草刈りなどの環境整備	買い物代行	外出同行（通院、買い物等）	外出時の送迎	配食の手伝い	調理の手伝い
男性　65～74歳	934	33.7%	20.6%	34.5%	10.2%	9.4%	14.2%	3.3%	2.3%
75～84歳	818	29.2%	20.0%	29.9%	7.9%	7.1%	8.5%	1.8%	1.5%
85歳以上	202	18.4%	16.7%	17.6%	5.4%	5.2%	3.5%	1.0%	2.2%
女性　65～74歳	1,121	43.9%	21.1%	10.9%	16.1%	9.7%	5.3%	11.9%	11.3%
75～84歳	1,127	33.4%	17.4%	7.4%	9.5%	5.7%	3.8%	8.8%	9.8%
85歳以上	308	17.9%	8.9%	6.8%	2.8%	2.4%	0.5%	3.6%	6.3%

	回答数	掃除・洗濯の手伝い	サロンなど、通いの場のサポート	その他	できない	無回答
男性　65～74歳	934	4.0%	4.8%	2.4%	27.2%	4.2%
75～84歳	818	2.3%	3.5%	2.3%	34.9%	6.4%
85歳以上	202	0.2%	2.1%	1.1%	49.2%	11.1%
女性　65～74歳	1,121	10.1%	7.9%	3.3%	26.6%	5.2%
75～84歳	1,127	6.4%	6.0%	2.4%	33.4%	10.0%
85歳以上	308	3.1%	2.6%	2.4%	58.1%	11.2%

性・年齢別にみると、男性65～74歳、男性75～84歳では「草刈りなどの環境整備」と回答した人の割合が、女性65～74歳、女性75～84歳では「見守り・声かけ」と回答した人の割合が最も高くなっている。

【自分ができる地域の支え合い活動(地域の人との付き合いの程度別)】

	回答数	見守り・声かけ	ゴミ出し	草刈りなどの環境整備	買い物代行	外出同行（通院、買い物等）	外出時の送迎	配食の手伝い	調理の手伝い
日頃から困りごとがあれば助け合ったり協力し合ったりしている	675	53.3%	28.4%	27.4%	18.0%	14.2%	11.5%	11.0%	11.3%
お互いの自宅を訪問し合う人がいる	632	50.1%	26.3%	21.2%	15.4%	11.7%	8.9%	10.0%	10.4%
一緒に買い物等で外出をする人がいる	328	47.9%	29.6%	13.3%	21.4%	16.9%	8.5%	15.6%	15.8%
困った時に気軽に頼める人がいる	627	47.4%	27.8%	22.2%	17.1%	13.8%	9.6%	10.9%	11.7%
立ち話、挨拶をする人がいる	2,969	40.5%	22.2%	20.0%	12.0%	8.4%	7.2%	6.7%	6.8%
付き合いはほとんどない	1,044	17.2%	11.8%	14.6%	6.1%	4.7%	6.3%	5.3%	4.6%

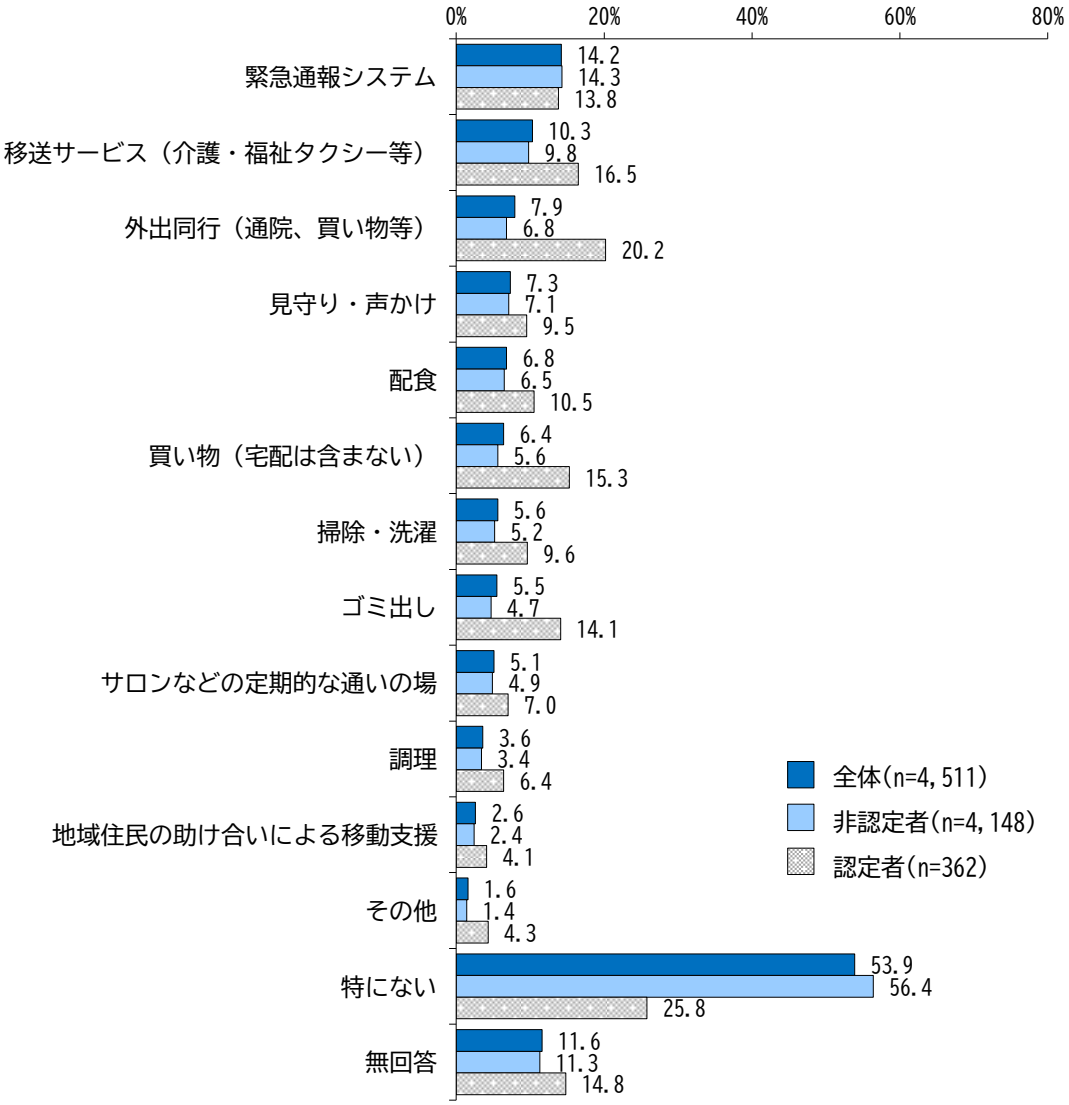
	回答数	掃除・洗濯の手伝い	サロンなど、通いの場のサポート	その他	できない	無回答
日頃から困りごとがあれば助け合ったり協力し合ったりしている	675	9.3%	13.2%	1.4%	15.3%	5.1%
お互いの自宅を訪問し合う人がいる	632	9.2%	10.1%	1.9%	23.2%	4.9%
一緒に買い物等で外出をする人がいる	328	14.2%	11.6%	1.8%	18.3%	6.1%
困った時に気軽に頼める人がいる	627	9.8%	10.4%	2.2%	21.6%	5.0%
立ち話、挨拶をする人がいる	2,969	5.9%	6.2%	2.8%	28.3%	5.2%
付き合いはほとんどない	1,044	4.8%	3.2%	2.6%	51.8%	4.5%

地域の人との付き合いの程度別にみると、深い付き合いがある（「日頃から困りごとがあれば助け合ったり協力し合ったりしている」、「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」、「一緒に買い物等で外出をする人がいる」、「困った時に気軽に頼める人がいる」）層では７割以上の人が何らかの活動を回答しているが、「付き合いはほとんどない」層においても、４割以上の人が何らかの活動を回答している。

●利用したい介護保険サービス以外の支援･サービス

問１-６　今後、利用したい「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて回答してください。（いくつでも）

【利用したい介護保険サービス以外の支援･サービス（認定状況別）】



利用したい介護保険サービス以外の支援・サービスについて、全体では、「特にない」と無回答を除く34.5%の人が何らかの支援・サービスを回答しており、「緊急通報システム」と回答した人の割合が14.2%と最も高く、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（10.3%）、「外出同行（通院、買い物等）」（7.9%）が続いている。

認定状況別にみると、非認定者では、「特にない」と無回答を除く32.3%の人が何らかの支援・サービスを回答しており、「緊急通報システム」と回答した人の割合が最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっている。

認定者では、「特にない」と無回答を除く59.4%の人が何らかの支援・サービスを回答しており、「外出同行（通院、買い物等）」と回答した人の割合が最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」となっている。

【利用したい介護保険サービス以外の支援・サービス(性・年齢別)】

	回答数	緊急通報システム	移送サービス（介護・福祉タクシー等）	外出同行（通院、買い物等）	見守り・声かけ	配食	買い物（宅配は含まない）	掃除・洗濯	ゴミ出し
男性　65～74歳	934	9.1%	7.5%	4.4%	6.1%	5.6%	4.5%	4.5%	4.5%
75～84歳	818	13.4%	8.2%	7.4%	6.2%	8.5%	5.9%	6.5%	4.3%
85歳以上	202	15.7%	12.4%	6.9%	6.8%	8.4%	8.6%	7.1%	5.3%
女性　65～74歳	1,121	15.9%	11.1%	7.5%	7.0%	6.2%	5.6%	4.5%	4.3%
75～84歳	1,127	16.4%	12.5%	8.5%	9.0%	6.7%	7.7%	6.0%	6.8%
85歳以上	308	16.9%	11.9%	19.7%	8.3%	7.5%	10.6%	7.1%	11.6%

	回答数	サロンなどの定期的な通いの場	調理	地域住民の助け合いによる移動支援	その他	特にない	無回答
男性　65～74歳	934	3.3%	4.0%	2.1%	0.5%	69.4%	7.8%
75～84歳	818	2.6%	4.5%	2.5%	1.8%	54.6%	12.5%
85歳以上	202	5.3%	5.0%	2.4%	3.1%	41.1%	15.3%
女性　65～74歳	1,121	5.8%	2.5%	2.7%	1.1%	59.4%	8.1%
75～84歳	1,127	6.7%	3.3%	2.7%	2.2%	44.1%	15.2%
85歳以上	308	8.7%	4.4%	3.5%	2.8%	29.8%	17.9%

性・年齢別にみると、何らかの支援・サービスを回答している割合は男女ともに年齢が上がるほど高くなっており、男性85歳以上では「緊急通報システム」、女性85歳以上では「外出同行（通院、買い物等）」と回答した人の割合が最も高くなっている。

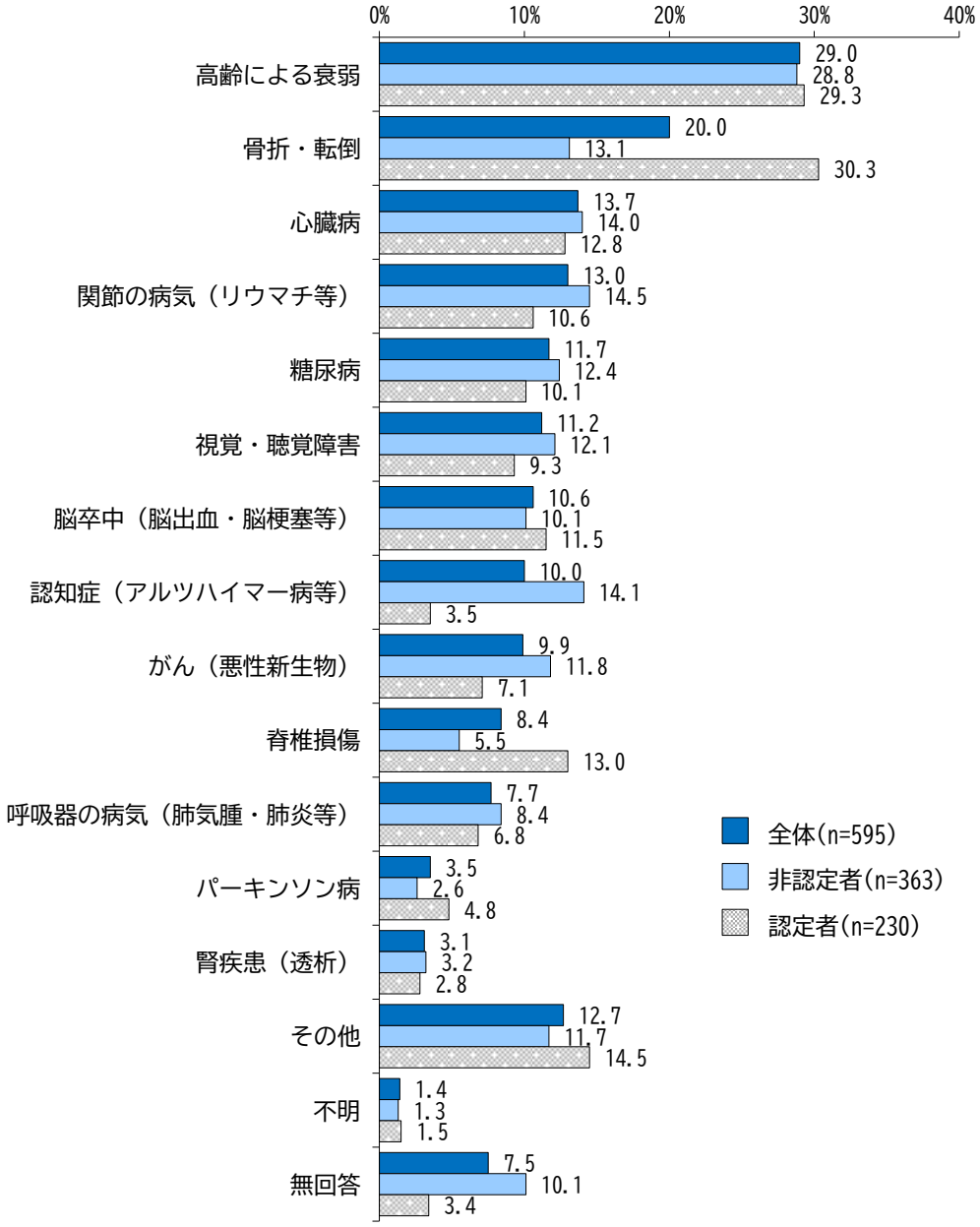
3.健康寿命を延伸する健康づくりの推進

●介護･介助が必要になった原因

問1-4で「1. 介護･介助は必要ない」と回答した人以外の人が回答

問１－４－①　介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）

【介護･介助が必要になった原因(認定状況別)】



介護・介助が必要になった原因について、全体では、「高齢による衰弱」と回答した人の割合が29.0%と最も高く、次いで「骨折・転倒」（20.0%）となっている。

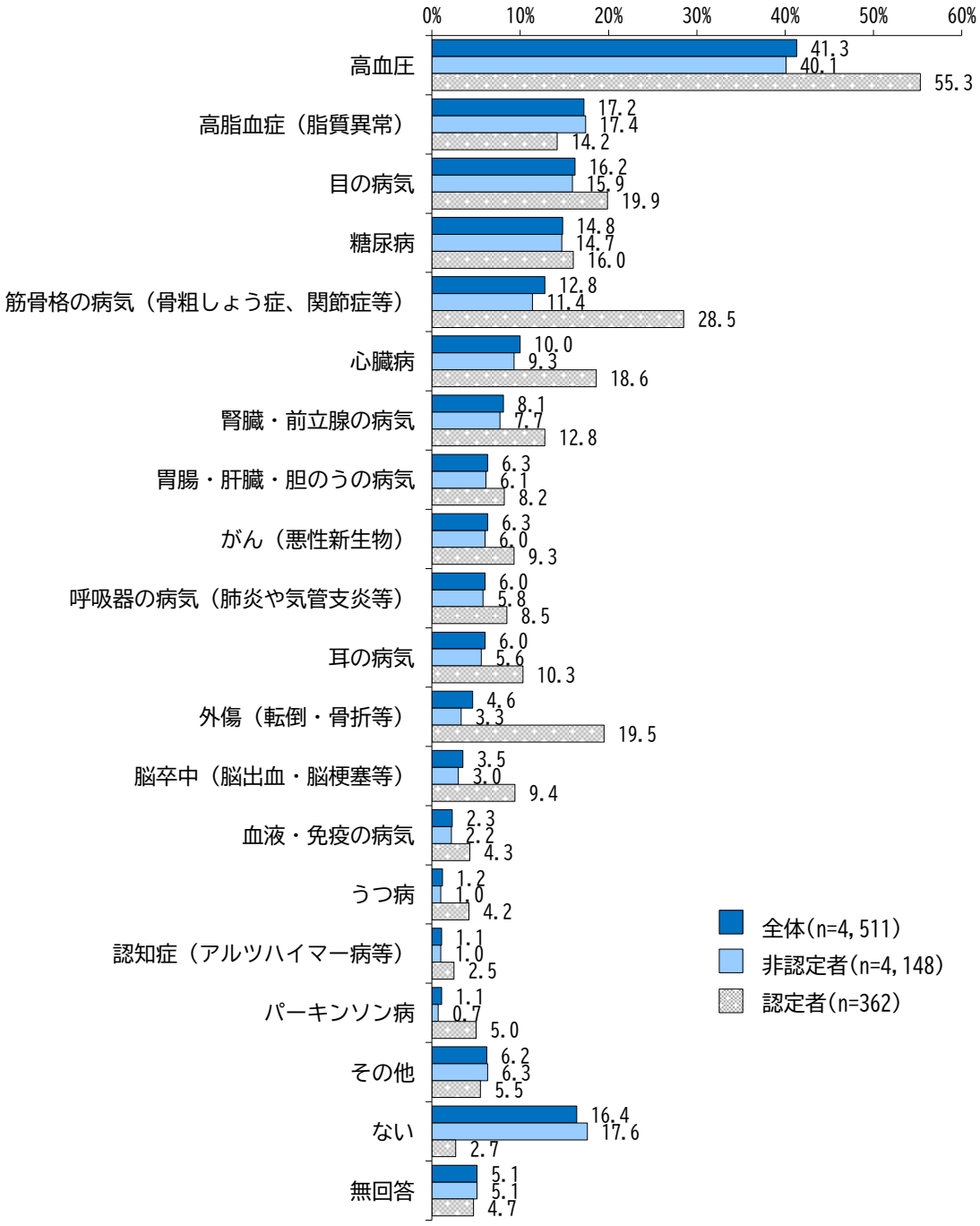
認定状況別にみると、非認定者では、「高齢による衰弱」と回答した人の割合が最も高く、「関節の病気（リウマチ等)」、「認知症（アルツハイマー病等)」、「心臓病」が続いている。

認定者では、「骨折・転倒」と回答した人の割合が最も高く、次いで「高齢による衰弱」となっている。

●現在治療中、または後遺症のある病気

問８-12　現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（いくつでも）

【現在治療中、または後遺症のある病気（認定状況別）】



現在治療中、または後遺症のある病気について、全体では、「高血圧」と回答した人の割合が41.3%と最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」（17.2%）となっている。

認定状況別にみると、非認定者では、「高血圧」と回答した人の割合が最も高く、次いで「高脂血症（脂質異常）」となっている。

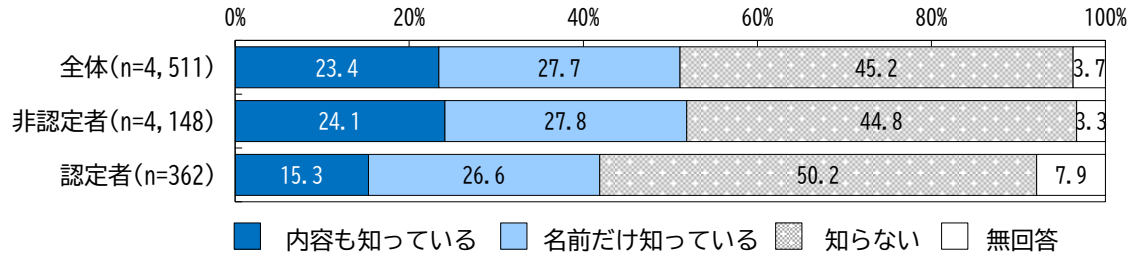
認定者では、「高血圧」と回答した人の割合が最も高く、次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」となっている。

4.状態の改善につながる介護予防・生活支援サービス等の提供

●フレイルの認知度

問9-3 あなたはフレイル(虚弱)やフレイル予防という言葉を知っていますか。(1つだけ)

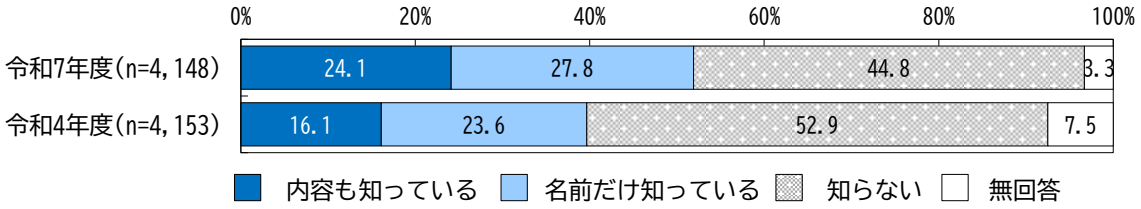
【フレイルの認知度（認定状況別)】



フレイルの認知度について、全体では、「内容も知っている」と回答した人の割合が 23.4%となっている。

認定状況別にみると、「内容も知っている」と回答した人の割合は、非認定者で 24.1%、認定者で 15.3%となっている。

【フレイルの認知度（経年比較（非認定者))】

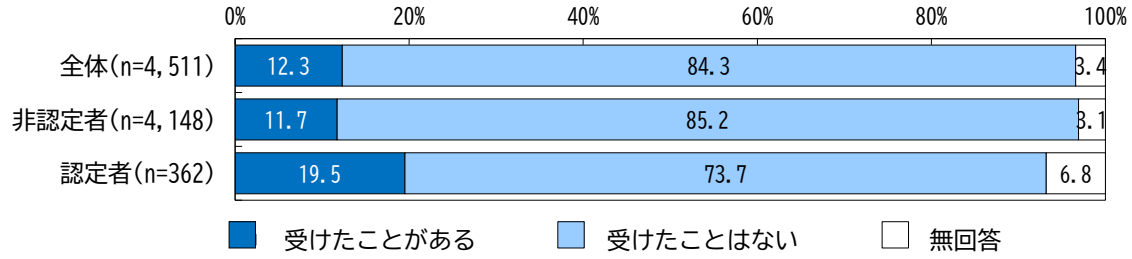


経年比較すると、「内容も知っている」と回答した人の割合は上昇している。

●生活機能評価を受けた経験の有無

問9-4　あなたはフレイル健康チェックをはじめとした、生活機能の評価を医療機関や薬局、公民館等で受けたことがありますか。(1つだけ)

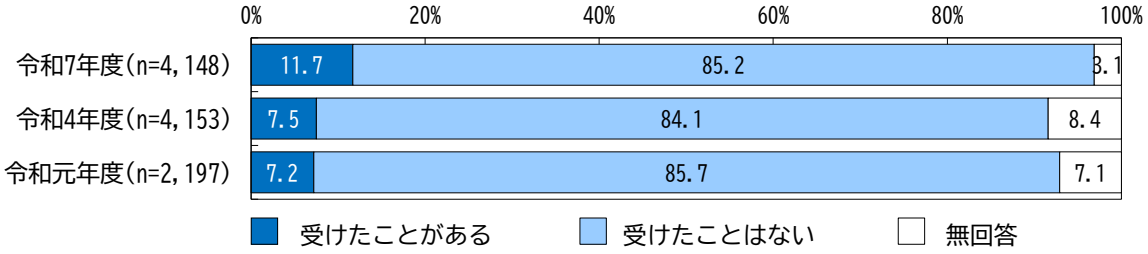
【生活機能評価を受けた経験の有無（認定状況別)】



生活機能評価を受けた経験の有無について、全体では、「受けたことがある」と回答した人の割合が12.3%となっている。

認定状況別にみると、「受けたことがある」と回答した人の割合は、非認定者で11.7%、認定者で19.5%となっている。

【生活機能評価を受けた経験の有無（経年比較（非認定者))】

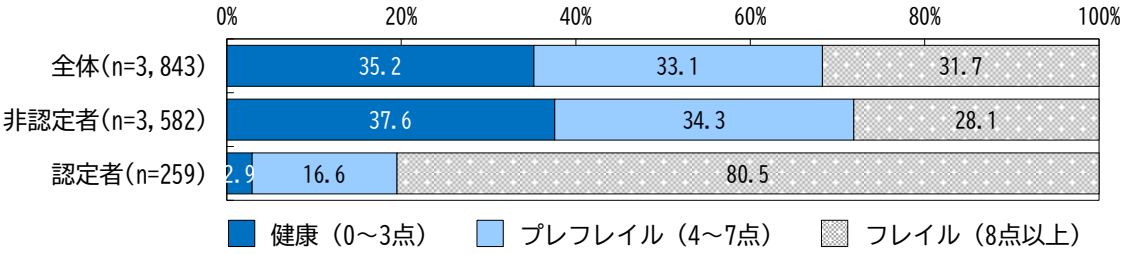


経年比較すると、「受けたことがある」と回答した人の割合は上昇している。

●リスク該当状況

【フレイル該当状況（認定状況別）】

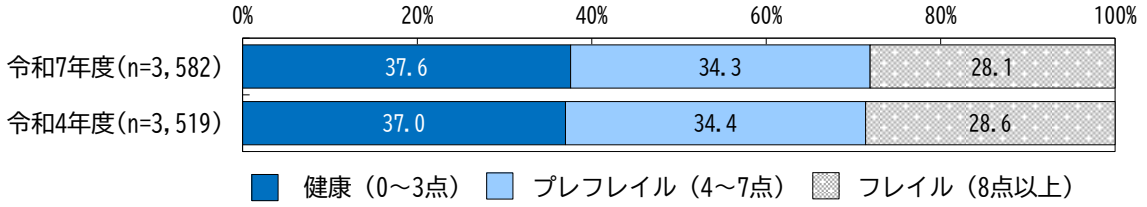
＊無回答を除いた集計



フレイル該当状況について、全体では、「フレイル（８点以上)」に該当する人の割合 31.7%となっている。

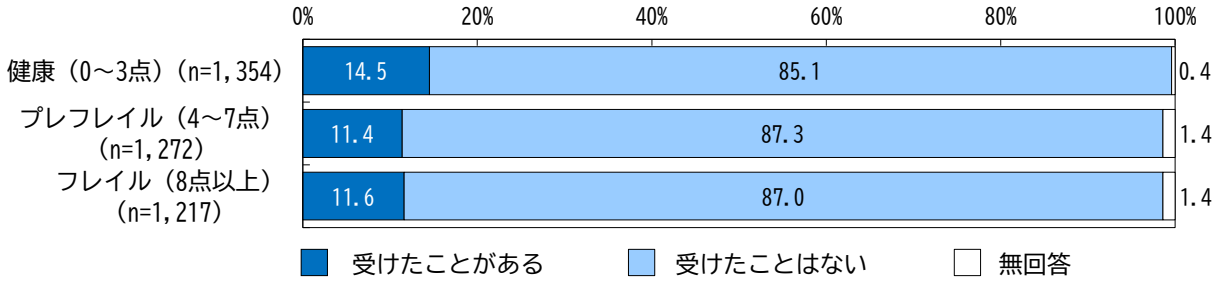
認定状況別にみると、「フレイル（８点以上)」に該当する人の割合は、非認定者で 28.1%、認定者で 80.5%となっている。

【フレイル該当状況（経年比較（非認定者))】



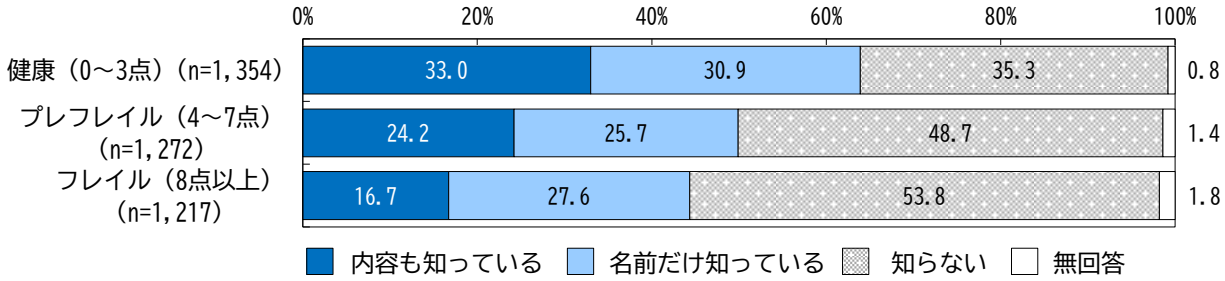
経年比較すると、「フレイル（８点以上)」に該当する人の割合に特徴的な変化はみられない。

【生活機能評価を受けた経験の有無（フレイル該当状況別)】



生活機能評価を受けた経験の有無について、フレイル該当状況別にみると、「受けたことがある」と回答した人の割合は、健康（０～３点）に該当する人で高くなっている。

【フレイルの認知度（フレイル該当状況別）】

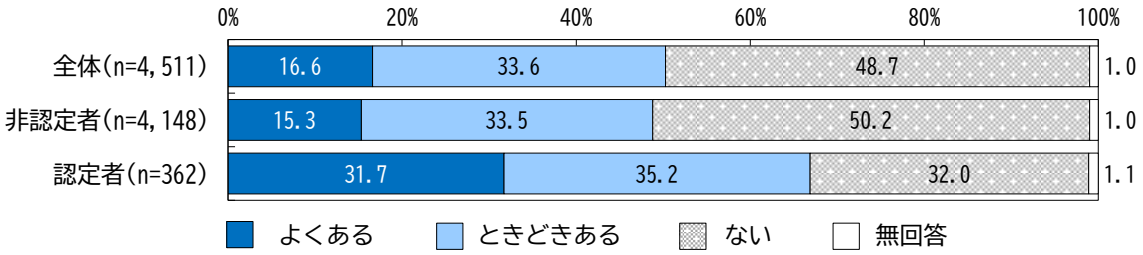


フレイルの認知度について、フレイル該当状況別にみると、「知らない」と回答した人の割合は、フレイル、プレフレイル、健康の順に高く、フレイル（８点以上）に該当する層で 53.8%となっている。

●聞こえの状況

問５-１　日常生活で聞こえづらさを感じることはありますか。（１つだけ）

【聞こえの状況（認定状況別）】



聞こえの状況について、全体では、聞こえづらさを感じることが「ある」（「よくある」＋「ときどきある」）と回答した人の割合が50.2%となっている。

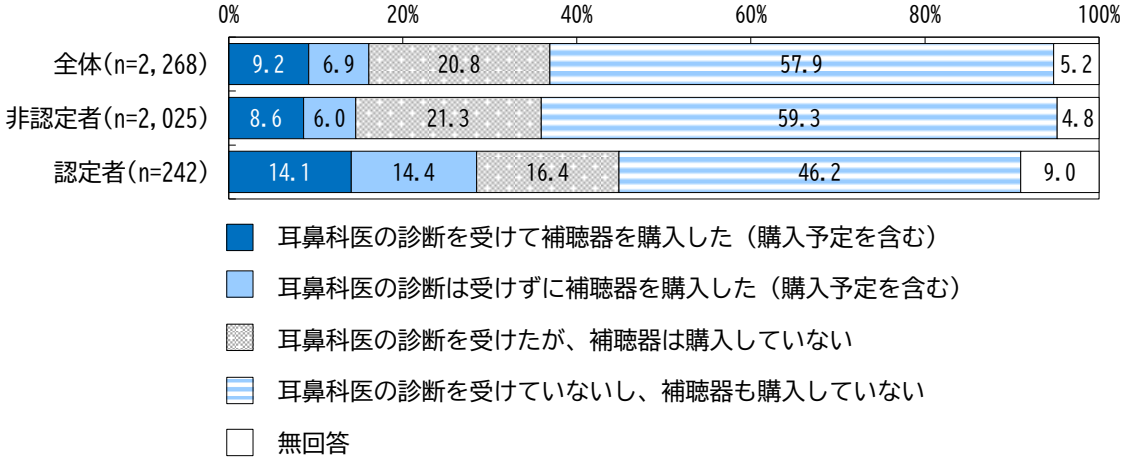
認定状況別にみると、聞こえづらさを感じることが「ある」（「よくある」＋「ときどきある」）と回答した人の割合は、非認定者で48.8%、認定者で66.9%となっている。

●補聴器の保有状況

問5-1で「1　よくある」「2　ときどきある」と回答した人のみが回答

問５-１-②　補聴器を持っていますか。（１つだけ）

【補聴器の保有状況（認定状況別）】



補聴器の保有状況について回答した人の割合は、全体では、「耳鼻科医の診断を受けていないし、補聴器も購入していない」（57.9%）、「耳鼻科医の診断を受けたが、補聴器は購入していない」（20.8%）、「耳鼻科医の診断を受けて補聴器を購入した（購入予定を含む）」（9.2%）の順で高くなっている。

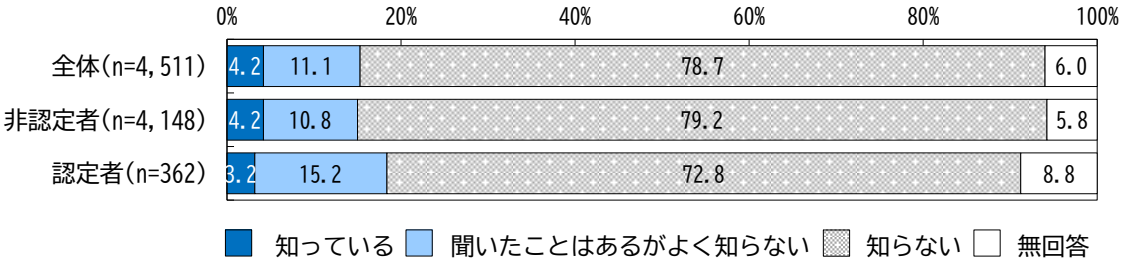
認定状況別にみると、「耳鼻科医の診断を受けて購入した（購入予定を含む）」または「耳鼻科医の診断は受けずに補聴器を購入した（購入予定を含む）」と回答した人の割合は、認定者が非認定者よりも高くなっている。

5.在宅医療・介護連携の推進

●人生会議の認知度

問11-５　「人生会議（ＡＣＰ：アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉を知っていますか。（１つだけ）

【人生会議の認知度（認定状況別）】



人生会議の認知度について、全体では、「知っている」と回答した人の割合が4.2%となっている。

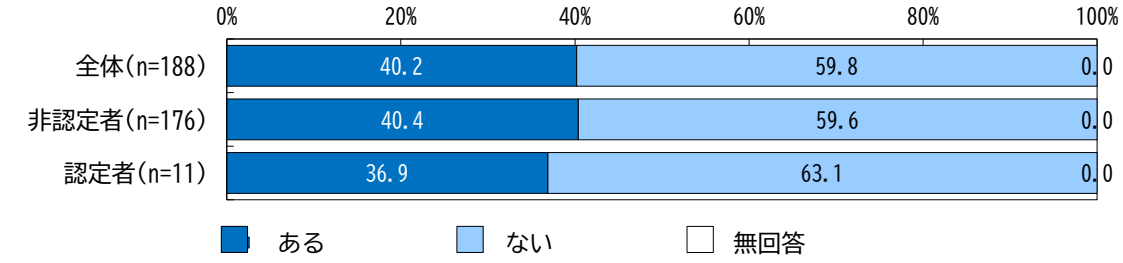
認定状況別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、非認定者で4.2%、認定者で3.2%となっている。

●人生会議についての話し合いの有無

問11-5で「1　知っている」と回答した人のみが回答

問11-５-①　人生会議について、誰かと話し合ったことがありますか。（１つだけ）

【人生会議について他者との話し合いの有無（認定状況別）】



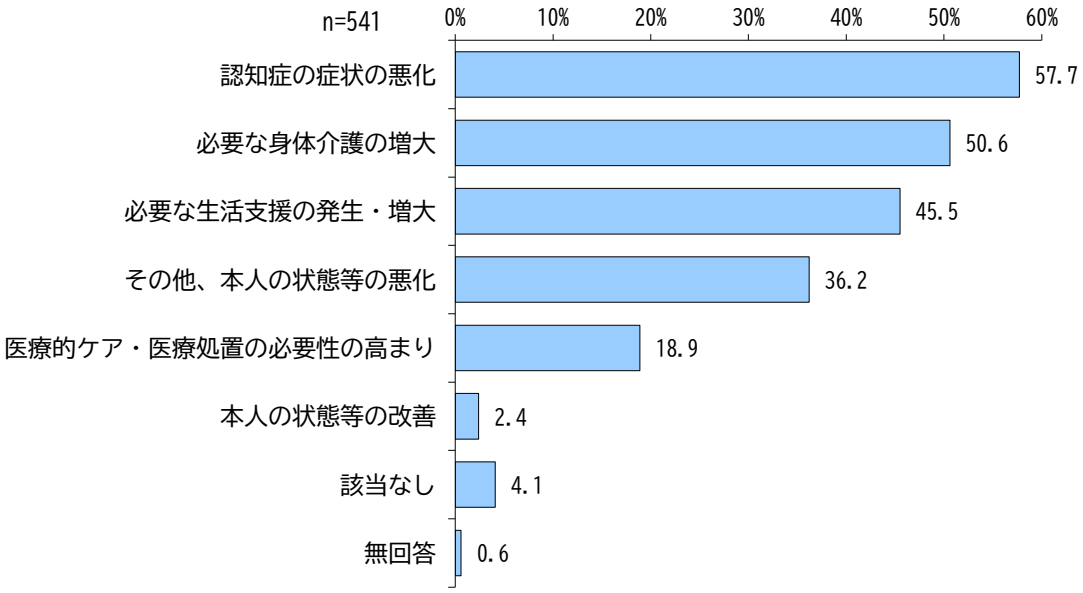
人生会議について他者との話し合いの有無について、全体では、「ある」と回答した人の割合が40.2%となっている。

認定状況別にみると、「ある」と回答した人の割合は、非認定者で40.4%、認定者で36.9%となっている。

●在宅での生活維持等が難しくなっている理由(本人の状態等)

問3-1（利用者票）
現在のサービス利用では、本人の生活の維持、もしくは家族等介護者の就労継続が難しくなっている理由の本人の状態等について、お答えください。(あてはまるものすべてに○)

【本人の状態等に属する理由】



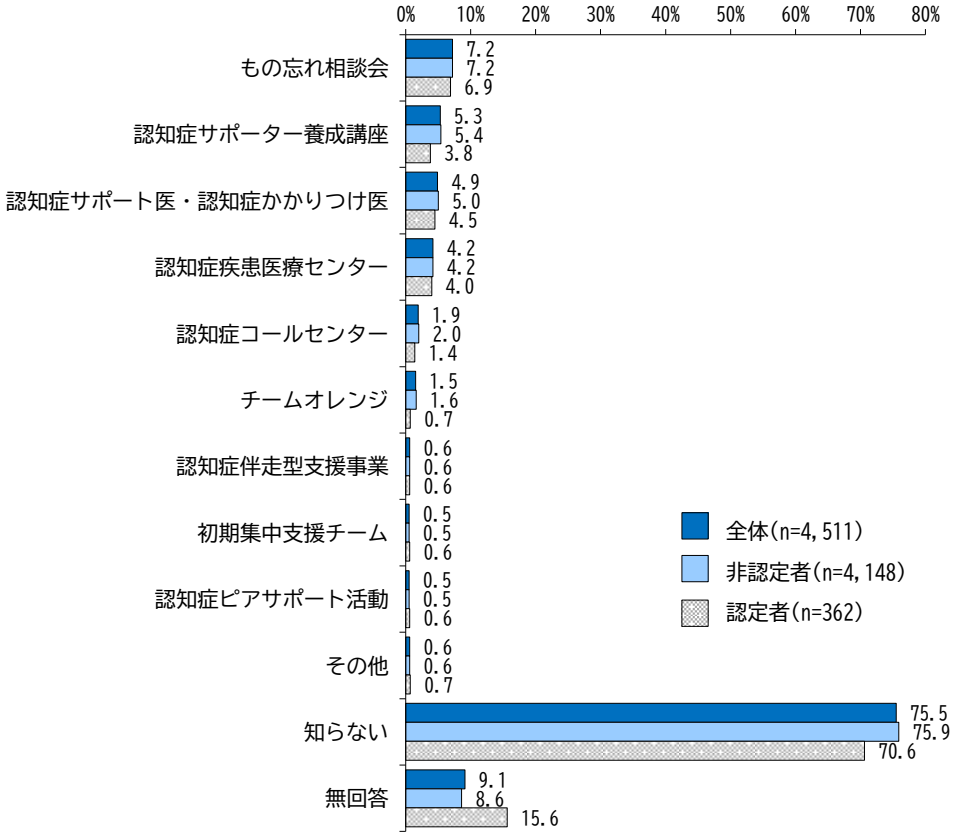
本人の状態等に属する理由について、「認知症の症状の悪化」の割合が57.7%と最も高く、「必要な身体介護の増大」(50.6%)、「必要な生活支援の発生・増大」(45.5%)が続いている。

6.認知症施策の推進

●岡山市の認知症に関する取組の認知状況

問10-６　岡山市の認知症に関する取組を知っていますか。（いくつでも）

【岡山市の認知症に関する取組の認知状況（認定状況別）】



岡山市の認知症に関する取組の認知状況について、全体では、「知らない」と回答した人の割合が75.5%であり、知っている取組では、「もの忘れ相談会」と回答した人の割合が7.2%、「認知症サポーター養成講座」と回答した人の割合が5.3%となっている。

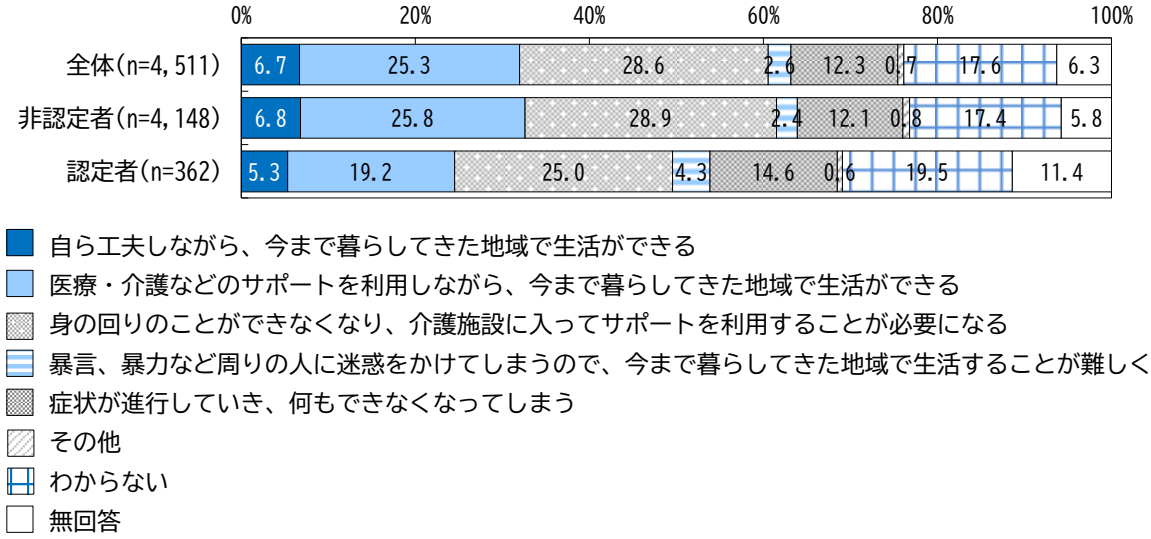
認定状況別にみると、非認定者では、「知らない」と回答した人の割合が75.9%であり、知っている取組では、「もの忘れ相談会」と回答した人の割合が7.2%、「認知症サポーター養成講座」と回答した人の割合が5.4%となっている。

認定者では、「知らない」と回答した人の割合が70.6%であり、知っている取組では、「もの忘れ相談会」と回答した人の割合が6.9%、「認知症サポート医・認知症かかりつけ医」と回答した人の割合が4.5%となっている。

●認知症に対するイメージ

問10-11　認知症に対してどんなイメージをもっていますか。（１つだけ）

【認知症に対するイメージ（認定状況別）】



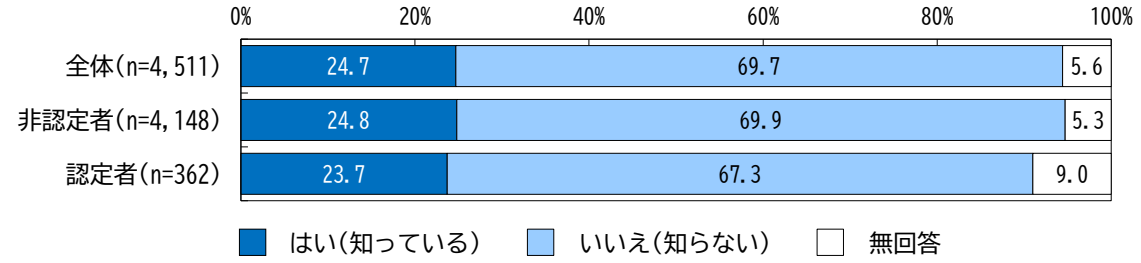
認知症に対するイメージについて、全体では、「身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」と回答した人の割合が28.6%と最も高く、次いで「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる」（25.3%）となっている。

認定状況別にみると、「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活ができる」と回答した人の割合は、非認定者で25.8%、認定者で19.2%となっている。

●認知症に関する相談窓口の認知度

問10-４　認知症に関する相談窓口を知っていますか。（１つだけ）

【認知症に関する相談窓口の認知度（認定状況別）】



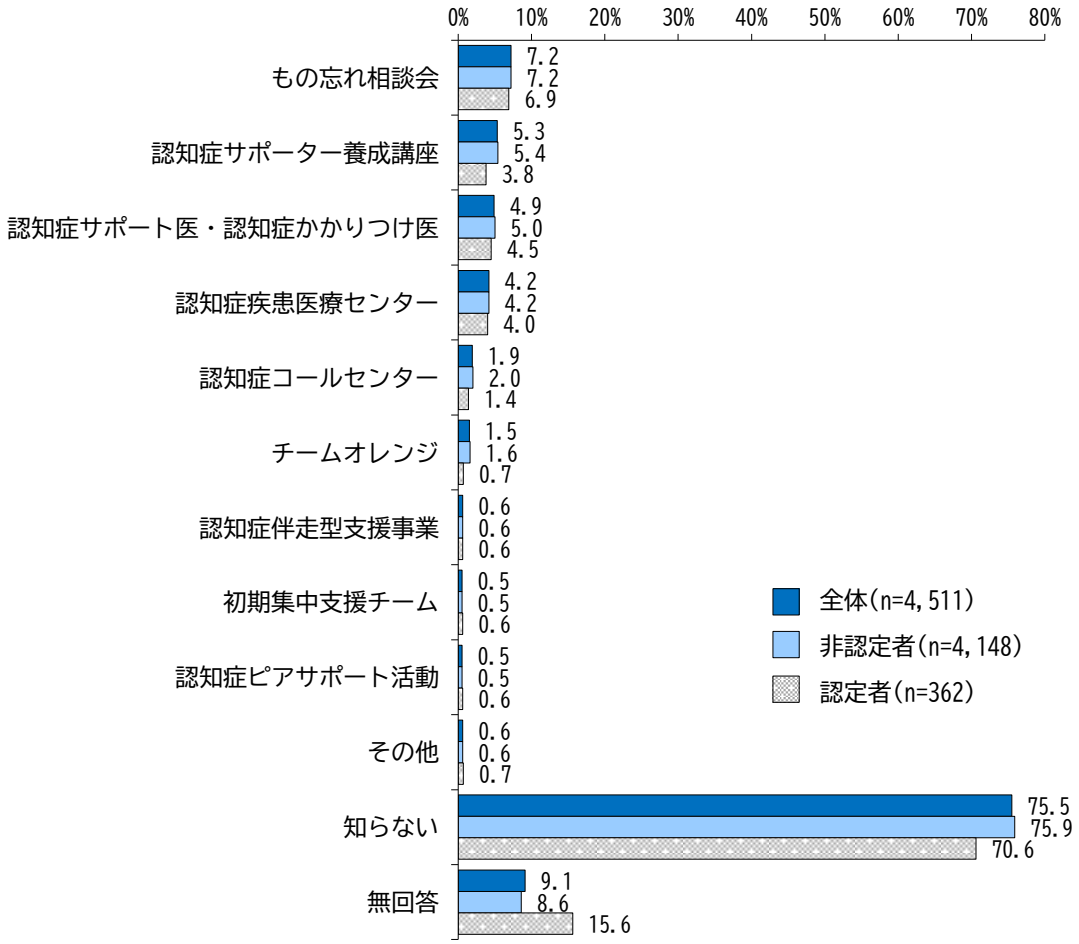
認知症に関する相談窓口の認知度について、全体では、「はい（知っている）」と回答した人の割合が24.7%となっている。

認定状況別にみると、「はい（知っている）」と回答した人の割合は、非認定者で24.8%、認定者で23.7%となっている。

●岡山市の認知症に関する取組の認知状況

問10-６　岡山市の認知症に関する取組を知っていますか。（いくつでも）

【岡山市の認知症に関する取組の認知状況（認定状況別）】



岡山市の認知症に関する取組の認知状況について、全体では、「知らない」と回答した人の割合が75.5%であり、知っている取組では、「もの忘れ相談会」と回答した人の割合が7.2%、「認知症サポーター養成講座」と回答した人の割合が5.3%となっている。

認定状況別にみると、非認定者では、「知らない」と回答した人の割合が75.9%であり、知っている取組では、「もの忘れ相談会」と回答した人の割合が7.2%、「認知症サポーター養成講座」と回答した人の割合が5.4%となっている。

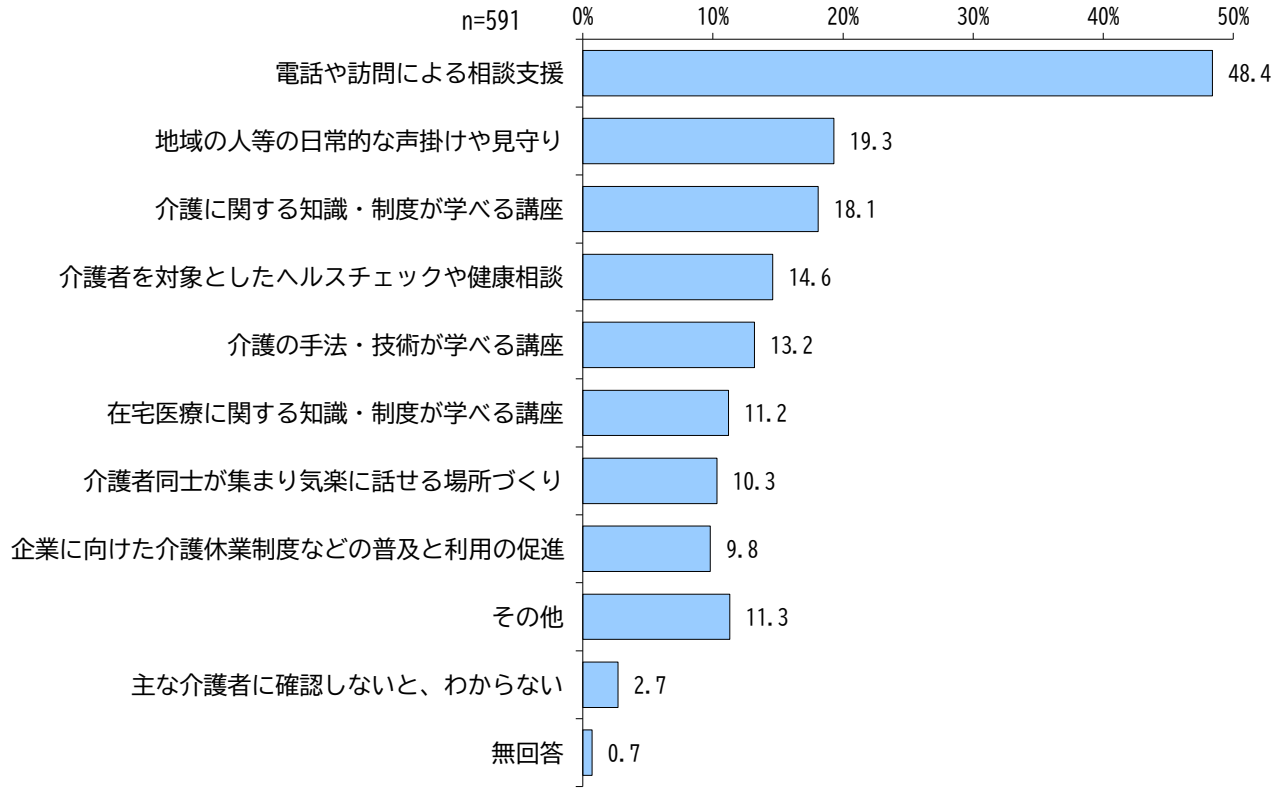
認定者では、「知らない」と回答した人の割合が70.6%であり、知っている取組では、「もの忘れ相談会」と回答した人の割合が6.9%、「認知症サポート医・認知症かかりつけ医」と回答した人の割合が4.5%となっている。

●安心して自宅で暮らし続けるために必要な支援･サービス

問5で「1」～「14」(不安に感じる介護)を回答した人のみが回答

B票-問５-１　主な介護者の方は、在宅での介護で感じる不安の解消に向けてどのような支援があれば良いと思いますか。（３つまで選択可）

【安心して自宅で暮らし続けるために必要な支援･サービス】



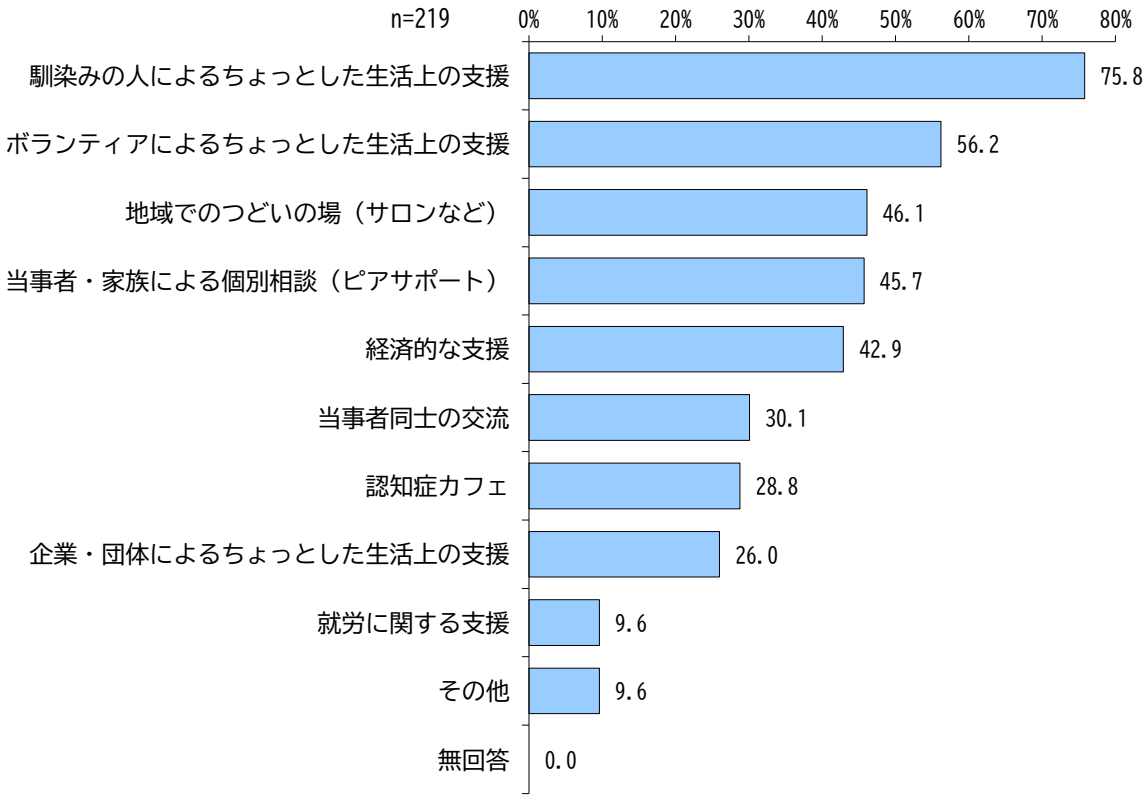
安心して自宅で暮らし続けるために必要な支援・サービスについて、「電話や訪問による相談支援」と回答した人の割合が48.4%と最も高く、「地域の人等の日常的な声掛けや見守り」（19.3%)、「介護に関する知識・制度が学べる講座」（18.1%)、「介護者を対象としたヘルスチェックや健康相談」（14.6%)、「介護の手法・技術が学べる講座」（13.2%）が続いている。

●認知症の人の支援にあたり介護保険サービス以外に必要な資源

問7で「1　はい」と回答した事業所(施設)のみが回答

問７-１（事業所票）
　具体的にどのような資源ですか。（あてはまるものすべてに○）

【認知症の人の支援にあたり介護保険サービス以外に必要な資源】



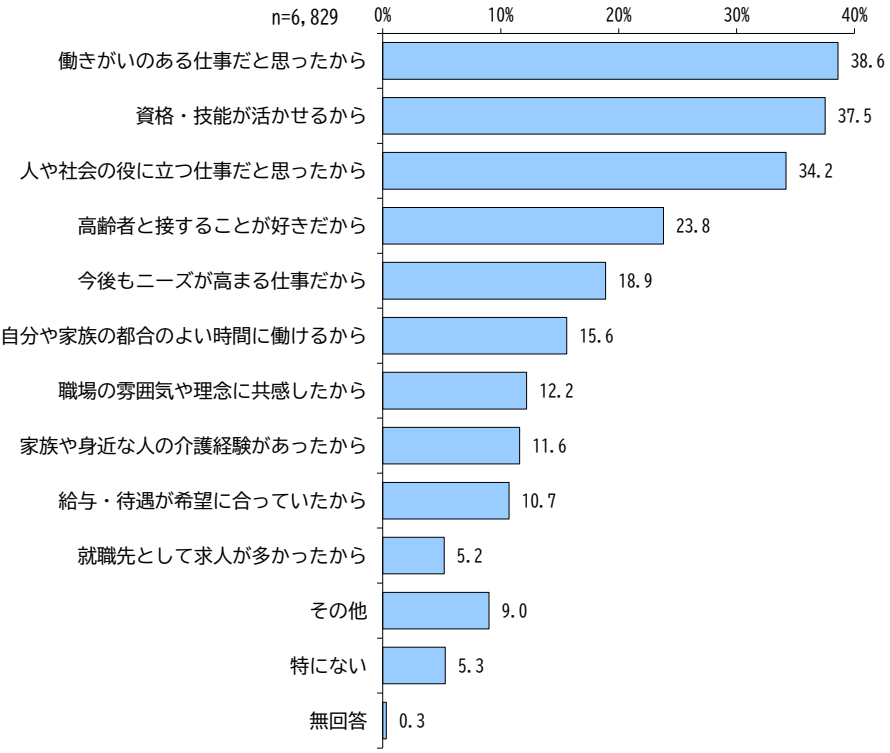
　認知症の人の支援にあたり介護保険サービス以外に必要な資源について、「馴染みの人によるちょっとした生活上の支援」と回答した事業所の割合が75.8%と最も高く、次いで「ボランティアによるちょっとした生活上の支援」（56.2%）となっている。

8.介護人材の確保・育成・離職防止、生産性の向上

●現在の仕事(介護関係)を選んだ理由

問８　あなたが現在の仕事（介護関係）を選んだ理由をご回答ください。
（あてはまるものすべてに○）

【介護関係の仕事を選んだ理由】

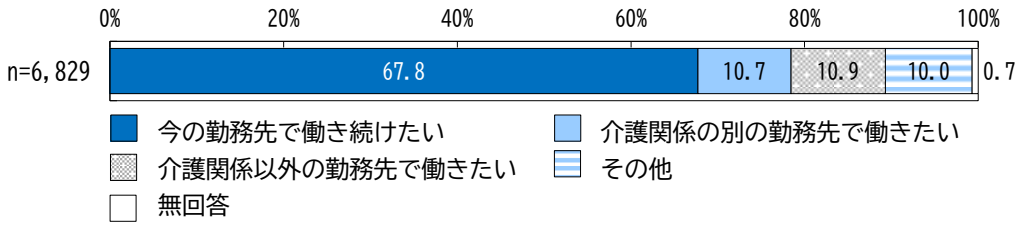


介護関係の仕事を選んだ理由について、「働きがいのある仕事だと思ったから」と回答した職員の割合が38.6%と最も高く、「資格・技能が活かせるから」（37.5%）、「人や社会の役に立つ仕事だと思ったから」（34.2%）が続いている。

●現在の事業所での勤務継続意向

問９　あなたは、現在勤めている事業所で働き続けたいと思いますか。（１つに○）

【現在の事業所での勤務継続意向】

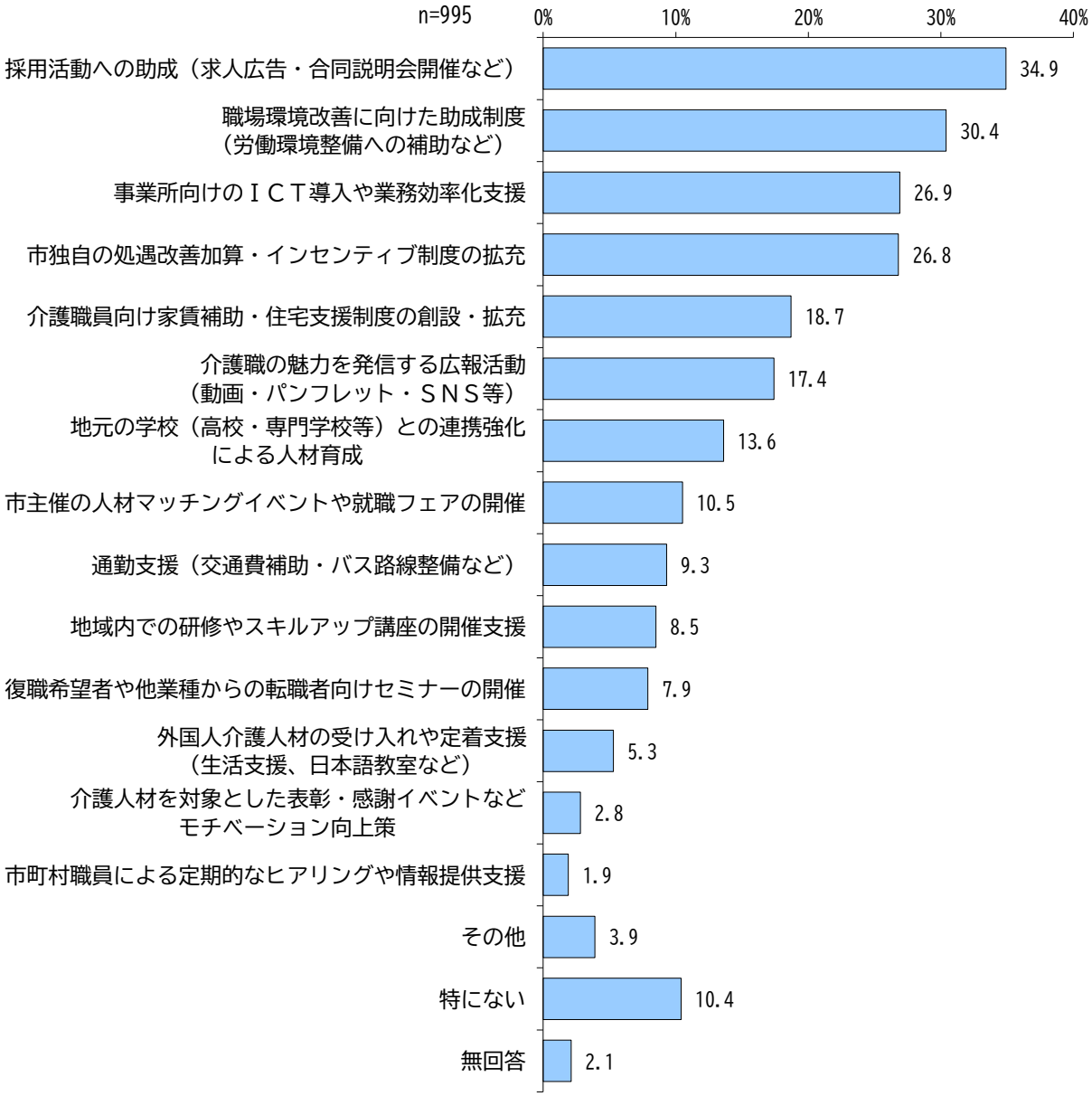


現在の事業所での勤務継続意向について、「今の勤務先で働き続けたい」と回答した職員の割合が67.8%となっている。

●人材確保のために市に求める支援

問８　人材確保のために市に求める支援を選んでください。（特に必要な支援３つまでに○）

【人材確保のために市に求める支援】

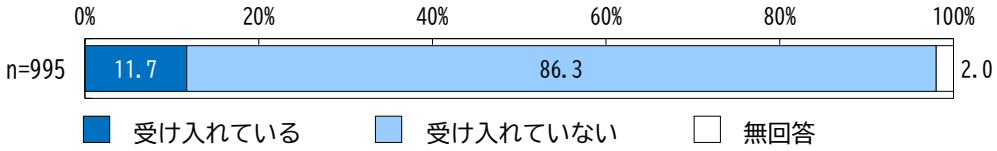


人材確保のために市に求める支援について、「採用活動への助成（求人広告・合同説明会開催など）」と回答した事業所の割合が34.9%と最も高く、「職場環境改善に向けた助成制度（労働環境整備への補助など）」（30.4%）、「事業所向けのＩＣＴ導入や業務効率化支援」（26.9%）、「市独自の処遇改善加算・インセンティブ制度の拡充」（26.8%）が続いている。

●外国人労働者の受け入れ状況

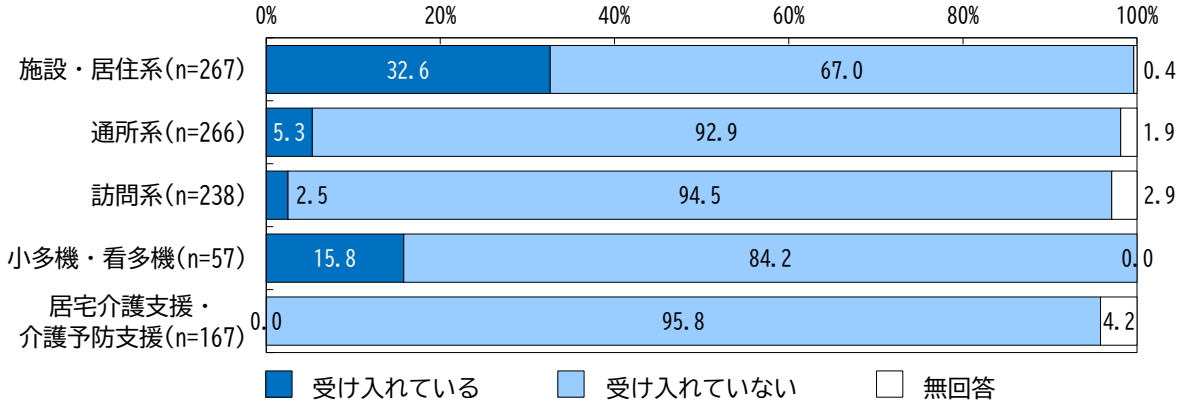
問９　外国人労働者を受け入れていますか。（１つに○）

【外国人労働者の受け入れ状況】



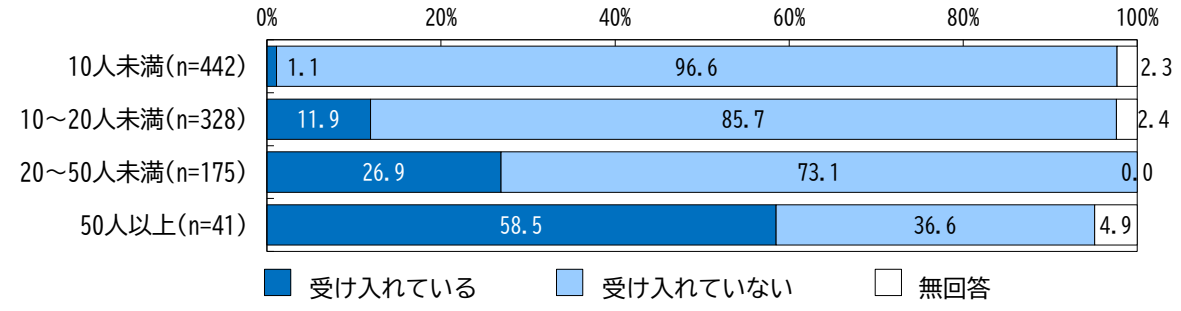
外国人労働者の受け入れ状況について、「受け入れている」と回答した事業所の割合が11.7%となっている。

【外国人労働者の受け入れ状況(サービス種別)】



サービス種別にみると、「受け入れている」と回答した事業所の割合は、施設・居住系で32.6%、小多機・看多機で15.8%、通所系で5.3%、訪問系で2.5%となっている。

【外国人労働者の受け入れ状況(従業員規模別)】

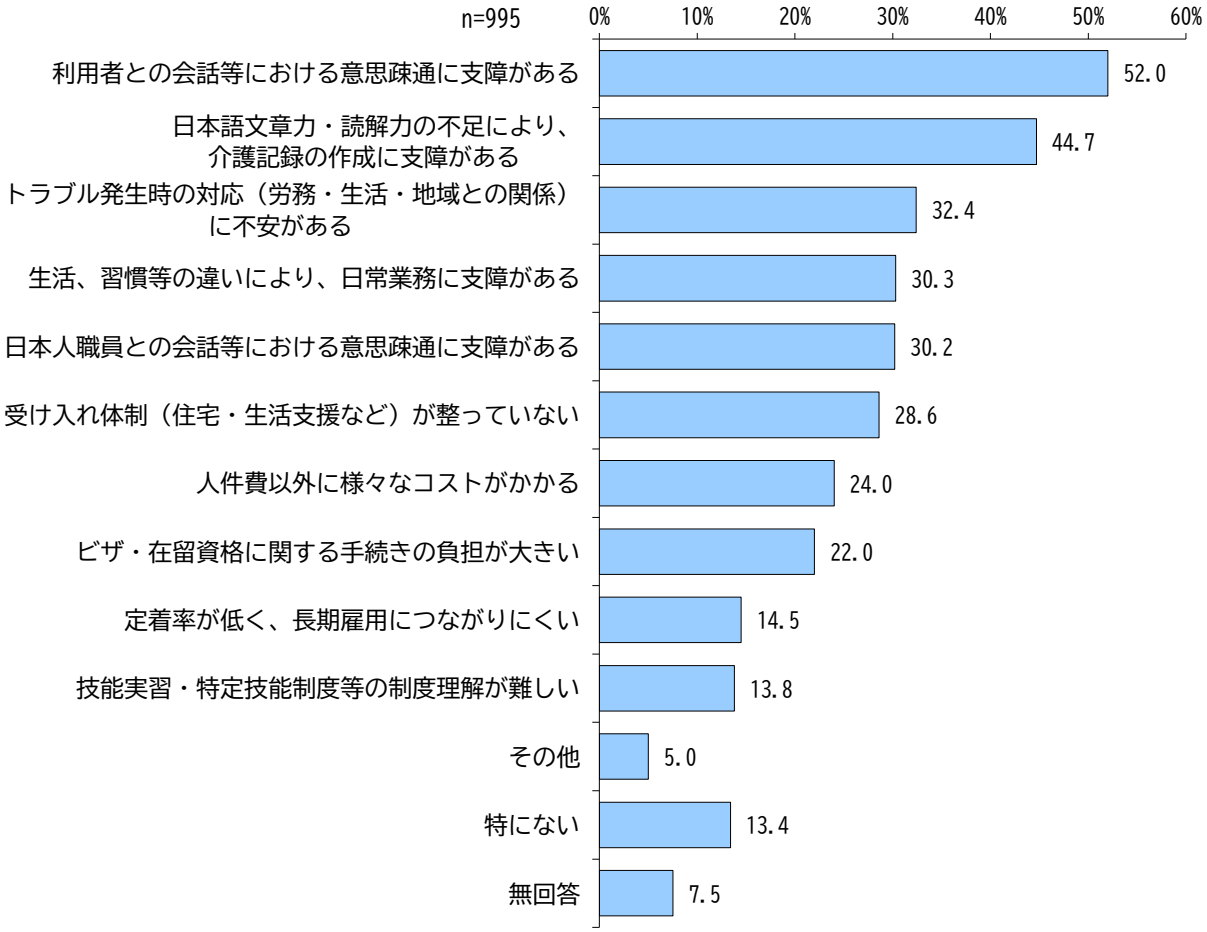


従業員規模別にみると、「受け入れている」と回答した事業所の割合は、規模が大きいほど高く、50人以上の事業所で58.5%となっている。

●外国人労働者の受け入れにあたっての課題

問11　外国人労働者を活用する上での課題についてお伺いします。
（あてはまるものすべてに○）

【外国人労働者の受け入れにあたっての課題】



外国人労働者の受け入れにあたっての課題について、「利用者との会話等における意思疎通に支障がある」と回答した事業所の割合が52.0%と最も高く、次いで「日本語文章力・読解力の不足により、介護記録の作成に支障がある」（44.7%）となっている。